

令和4年度 家庭教育支援プログラム指導者研修② 実施報告

実施日：令和4年6月8日（水）

【午前の研修】

○ 事例発表「親学習プログラムについて」

佐野市家庭教育支援チーム 廣瀬 恵子 氏
足利市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 小倉 祐司 氏
同 主任 廣瀬 文子 氏

佐野市と足利市の家庭教育支援に関する取組事例について紹介がありました。

特に、プログラム内容や講座の周知の方法、活用場面、実施に至るまでの手順等、親学習プログラムを活用して行う「出前講座」についての丁寧な説明がありました。

受講者は、プログラム指導者と各市町との関わり方を学ぶことで、研修修了後の活動をイメージできた様子でした。

○ 演習「親学習プログラムについて」

佐野市家庭教育支援チーム

廣瀬 恵子 氏、奥村 美佐子 氏

演習では、佐野市家庭教育支援チームが作成した「楽しい小学校生活のために」というプログラムを体験しました。

コロナ禍に対応したアイスブレイクや、ホワイトボードを活用しての意見交換、参加者の緊張を和らげ、活動意欲を喚起するようなファシリテーターの言葉かけなどにより、受講者は安心して演習に取り組みました。

子どもとのかかわり方を考えるプログラムとしての良さや、ファシリテーターに必要な配慮や技術等、演習をとおして受講者は様々なことを感じ、学んでいました。

【午後の研修】

○ 説明「コミュニケーションの技術について」

総合教育センター職員

ファシリテーションをする上で大切になってくるコミュニケーションの技術について説明がありました。ポイントとして、傾聴による安心感や信頼関係の構築がプログラムへの意欲的な参加につながることや、質問による「やわらかな主張」の効果とその具体的な在り方等が示されました。

○ 演習「ファシリテーター演習①」

総合教育センター職員、各教育事務所職員

5つの班に分かれ、自分たちで親学習プログラムをファシリテートする準備に入りました。

どの班も、これまでの学びや気づきを生かしたプログラムとすることを目標として、意欲的に協議を行い、役割分担して、次回研修での実践に備えました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・事例発表によって親学習プログラムが実施されるまでの流れやプログラム進行、ファシリテーターの役割等がさらによくわかりました。
- ・他の市町の方々と交流でき、いろいろな情報をいただき、とても良かったです。
- ・聴くことの難しさ、話すことの難しさを感じました。
- ・ファシリテーターの参加者を和ませる働きかけや、打ち解けた話しやすい会場の雰囲気作りをしながらワークを進めていく技法を知ることができました。
- ・プログラムに参加する方々に楽しんでもらえるプログラムにするには、ファシリテーター側も楽しみながらやれるといいのだろうと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp